



海と日本 PROJECT in 岩手



IBC 岩手放送

2021年度 成果

オリジナルイベント「海の体験学習」では、宮古市を会場に、県立水産科学館・宮古魚市場・共和水産加工工場などで、小学生たちが、海について知るきっかけを得た上で、水産業の現状を調べ、作業体験を通じて「職」「食」の観点から「海のなりわい」を自分事化した。さらには、マリンスポーツを通じて実際に海に触れ、海のアクティビティを楽しむことで海を好きになる、という密度の濃いアプローチを行うことができた。連携事例としては、宮古市の海の幸を牛乳瓶に詰め、宮古の海を感じられる“瓶どん”とコラボ。商品は宮古浄土ヶ浜レストハウスで提供するほか、オンラインショップでの販売や、宮古市のふるさと納税の返礼品として提供することで岩手県内のみならず日本全国で岩手の海を感じることができる。また、普代村・陸中黒崎灯台とコラボした「燈の守り人」のキャラクターを使った商品を開発、今後普代村役場と連携し、地元の盛り上げに活用。



「日本さばける塾in岩手」
小学生の親子が魚をさばいての調理を体験。食材はアジと三陸のホタテ。美味で感激!!



「燈の守り人プロジェクト」
普代村・陸中黒崎灯台のキャラクターが10月、村に贈呈された。村長は「イケメン!」。活用誓う。



「いわてマリキッズプロジェクト」
宮古市を会場に7月、内陸の小学生が1泊2日の体験学習旅行に臨んだ。ジオパーク、魚市場他。



「オリジナル瓶どん」発売へ
「いわてマリキッズ」開催記念、宮古名物「瓶どん」のオリジナル商品を作成。12月発売。

2022年度 目標

2021年の活動の中で問題として挙げた気候変動による魚の水揚げ量の減少などの問題、岩手県沿岸部で課題となっている「磯焼け」に焦点を充て、ウニの繁殖、魚の産卵場所になる“藻場”の減少などについて調査する。

世界三大漁場の一つに数えられ豊富な水資源を誇っていた三陸沖では魚が獲れなくなり、盛岡市の中心を流れる中津川に毎年来ていた鮭が遡上しなくなっている。こうした現状を海で暮らす人々との交流を通じて学び、キッズサポーターとしてネットワーク化。農林水産部とともにシンポジウムなどの場で啓発活動を行う。また、三陸の海に潜り続けるダイバーによる出前授業を県内の水産高校の生徒や小中学校の児童・生徒を対象に行い、次代を担う若い世代の発信を増やしていくことで、海の世界・文化に関心が薄い人々にも訴求していくコンテンツ作りにつなげていく。

中長期 目標

「観光」「水産」「教育」といった要素を融合させた「体験型プログラム」の重要性は、「海と日本プロジェクト」の事業を通じて、行政にも浸透してきている。今後はその連携をさらに深めることで、5年後には岩手県内の公立小学校に通った全て子どもたちが学校教育の現場において海について学び活動できるコンテンツの発掘・発信をする。同時に、広い県土・岩手県で、沿岸部と内陸部・山間部と住んでいるエリアに関わらず「灯台」「水族館」「魚市場」など海で暮らす人々の「なりわい」に触れることで、自発的に活動しともに海を守り育てる「サポーター」となる人材を増やしていくネットワークの中心としての役割を担っていく。